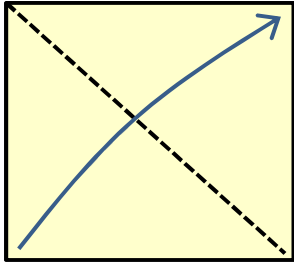


パラシュートの つくりかた

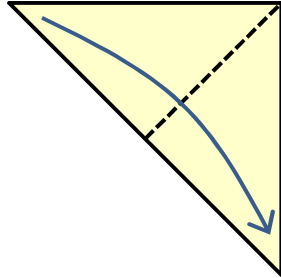
よういするもの

- ビニールシート
おお (65cm×65cmくらいの大きさ、ビニールぶくろでもよい)
- おもりのボール(ねんど・けしゴムでもよい)
- セロハンテープ、ひも(45cmくらい×8ほん)、はさみ

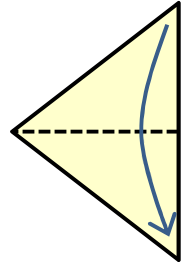
①ビニールシートを
ひろげて、さんかくにおる



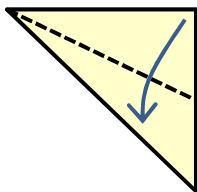
②もういちど、さんかくに
はんぶんにおる



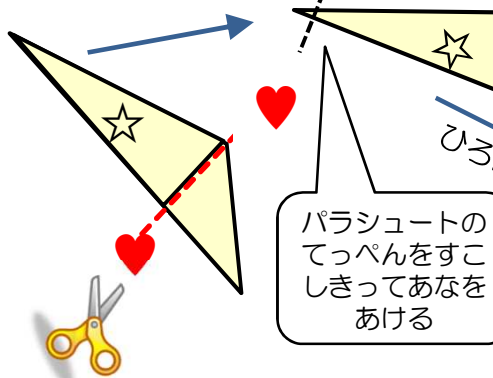
③もういちど、さんかくに
はんぶんにおる



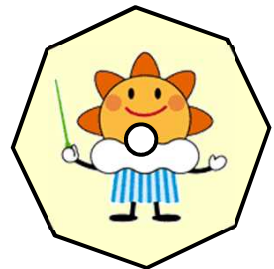
④もういちど
はんぶんにおって
ほそいさんかくにする



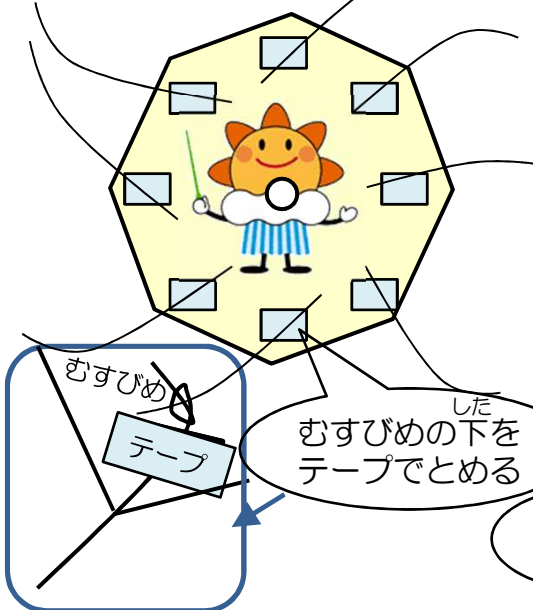
⑤♡---♡
をはさみできる



⑥きりとったぶぶんを
ひろげて、なまえや
すきなえを かいてね



⑦セロハンテープで かどにひもを
はりつける。(はりつけるほうの
ひものはじに、「むすびめ」を
つくると じょうぶになるよ。)



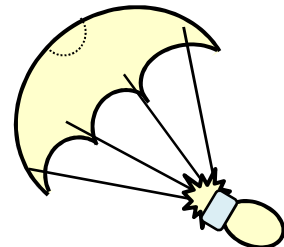
⑧ひものはじを
ひとつにむすぶ



⑨のこっているビニールで
おもりのボールをつつんで
テープで バラバラにならな
いようにとめる



⑩ひものはじに おもりを
テープでとめて、できあがり!



こうえん ひろ
公園など広いばしょで
あそびましょう!
かぜ
風がつよいときはやめようね

パラシュートのやくめ

おもりを ^{たか}高いところから ^{しずか}しずかにはなすと、
^{じゅうりょく}重 ^{したむ}力という ^{したむ}下向きの ^{ちから}力が おもりにかかるため、
^{はや}おちる速さが ^{おお}だんだん大きくなって ^{おお}おちていきます。

おもりに ^{くうき}パラシュートをつけて ^{おとす}おとすと、
パラシュートが ^{くうき}空気を ^{つかまえて}つかまえて ^{ていこう}ていこう力という ^{ちから}力が
^むおちる向きと ^{はんたい}反対の ^む向きに ^{かかります}かかります。

そのため、^{ブレーキ}パラシュートをつけると ^{おもりに}おもりに ^{ブレーキ}ブレーキがかかり、
^{ゆる}おもりは ^{ゆる}ゆっくりと ^{おちてくる}おちてくることになります。

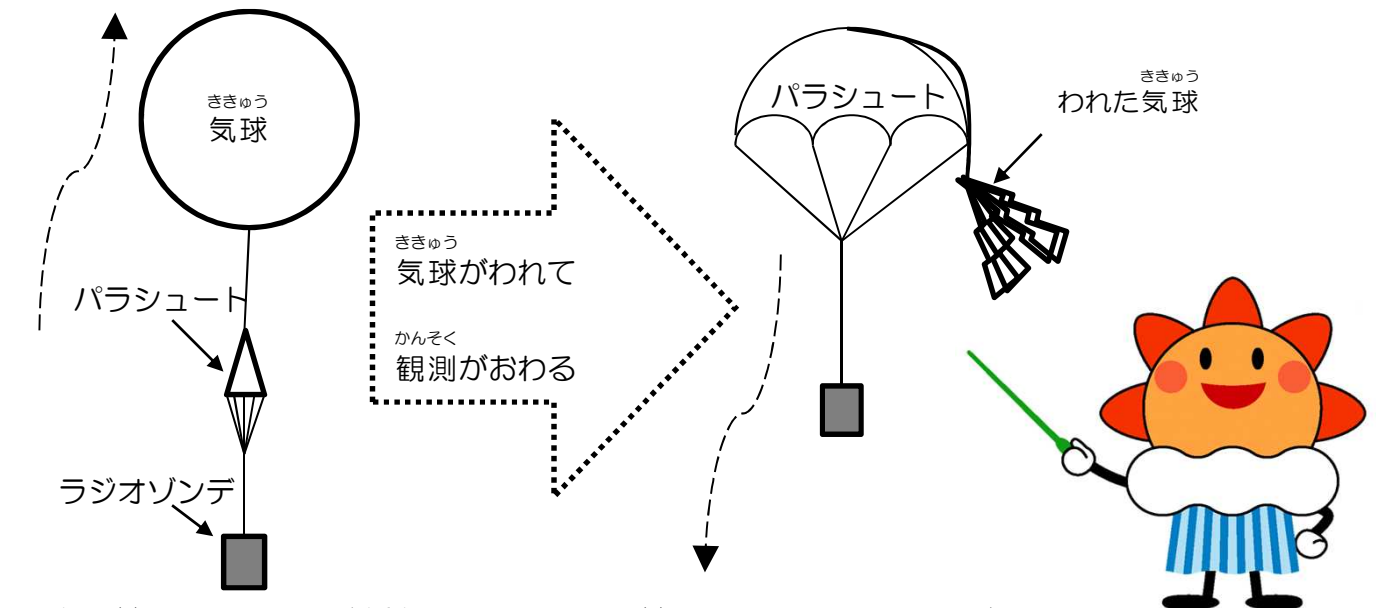
^{くうき}パラシュートをもって ^{はしって}はしってみると、
^{くうき}空気の ^{ていこう}ていこう力を ^{かん}感じる ^{ことができます}ことができます。



こうそうきしやうかんそく 高層気象観測でのパラシュートの利用

^{きしやうちやう}気象庁では、^{ラジオゾンデ}ラジオゾンデという ^{きかい}きかいをつかって、
^{ちじやう}地上から ^{じやうくうやく}上空 ^{きろめーとる}約30 km までの ^{たいき}大気の ^{じやうたい}じょうたいを ^{かんそく}観測しています。

^{ラジオゾンデ}ラジオゾンデは ^{ひだり}左の ^す図のように、^{おお}大きな ^{ききゆう}気球につないで ^{じやうくう}上空まで ^{とば}とばします。
^{かんそく}観測で ^{えられた}えられた ^{じやうほう}じょうほうは、^{てんき}天気 ^{よほう}よほうなどに ^{りやう}利用されています。



^{じやうくう}上空で ^{ききゆう}気球が ^{われる}われると ^{かんそく}観測は ^{おわり}おわり、^{ききゆう}われた ^{気球}気球と ^{ラジオゾンデ}ラジオゾンデは ^{ちじやう}地上まで ^{おりて}おりてきます。

このとき、^{あんぜん}ゆっくりと ^{あんぜん}安全に ^{ラジオゾンデ}ラジオゾンデが ^{おりてくる}おりてくるように、^{パラシュート}パラシュートが ^{つかわれて}つかわれています。